

# SpectraView® デモンストレーションプログラム

— 目次 —

1. デモンストレーション版について
2. ソフトウェアインストール方法について
3. ソフトウェアアンインストール
4. SpectraView の概要について
5. SpectraView デモプログラムの操作方法について

2010/04

(株)ハビリス

<http://www.habilis.co.jp>

問い合わせ先:[sv@abilis.co.jp](mailto:sv@abilis.co.jp)

## 1. デモンストレーション版について

当デモンストレーションプログラムは、SpectraView TEAC製LXシリーズ用データ収録・FFT解析ソフトウェアに後処理トラッキングオプションが組み込まれたものです。

当デモンストレーションプログラムはあらかじめ組み込まれたダミーファイルを読み込んでデータ収録機能を再現します。従って、LXに接続してデータ収録を行なうことはできません。

### (1)SpectraView の動作環境

当デモンストレーションプログラムは Windows XP/2000、グラフィック 1024×768 以上で動作します。Windows95/98/Me では動作しませんのでご注意ください。

### (2)制限事項

デモンストレーションプログラムには製品版とくらべて以下のような制限事項があります。

- a. LX を接続できません。  
ダミーファイルを読み込んでデータ収録を再現します。
- b. CSV 形式ファイルのインポート、TAFMatのインポートとエクスポートができません。
- c. グラフ表示とグラフ印刷時に「DEMO」の文字が表示されます。

### (3)その他注意点

当ソフトウェアの仕様は予告なく変更する場合があります。

ソフトウェアの詳細仕様は別途「機能概説書」を参照下さい。

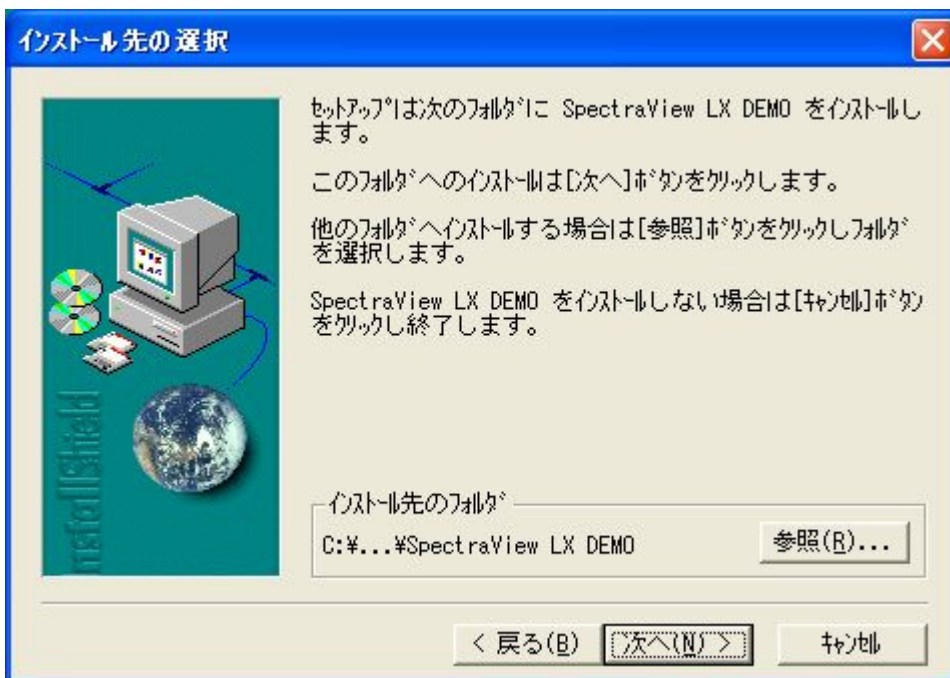
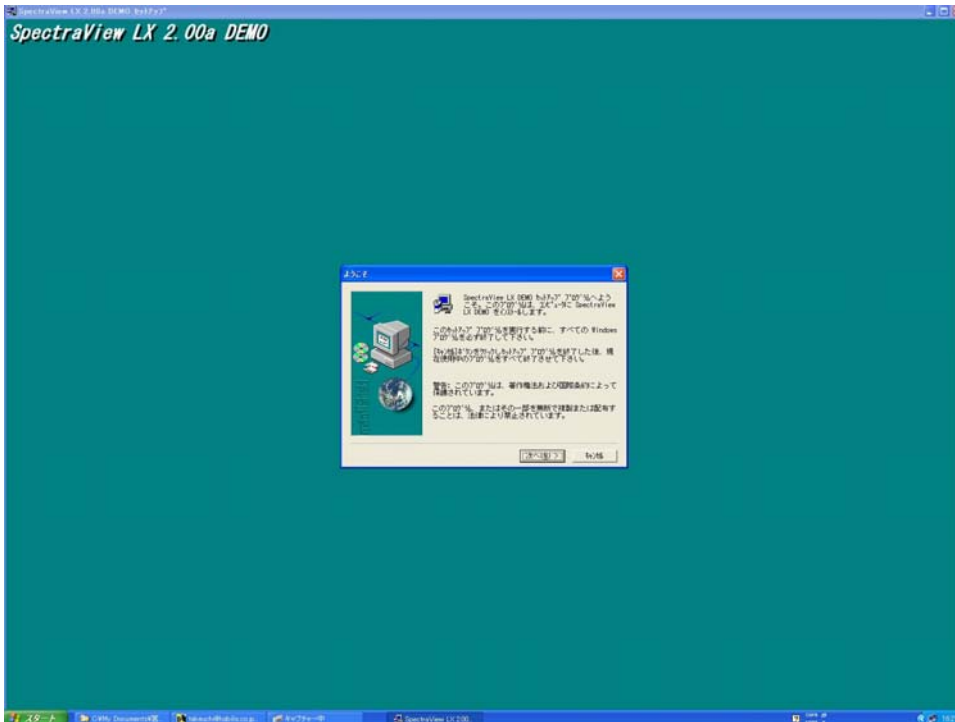
記載されている会社名・商品名は、各社の商標または登録商標です。

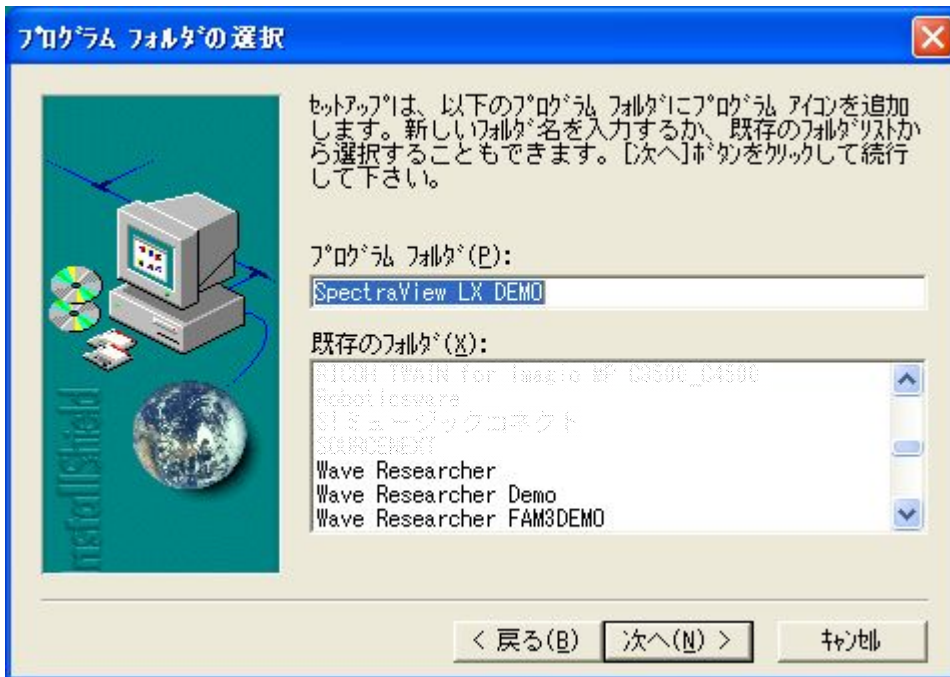
## 2. ソフトウェアインストール方法について

- a. CD-ROM 内の SETUP.EXE を実行してください。
- b. 特定のプログラムフォルダを指定しない場合には、「C:\¥Program Files¥SpectraView LX DEMO」にインストールされます。

以降の説明では、このフォルダ名で行います。

- c. デスクトップ上に「SpectraView LX 2.00a DEMO」のショートカットアイコンが作成されます。プログラムの起動はこれをダブルクリックしてください。





### 3. アンインストール

「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」から、SpectraViewの削除を行ってください。フォルダ「C:\Program Files\Spectra View LX DEMO」は、手作業で削除してください。

## 4. SpectraView の概要について

ソフトウェアの詳細仕様は別途「機能概説書」をご参照下さい。

ここではパソコンにリアルタイム収録されるデータの形式と画面構成について説明します。

### (1) データ収録

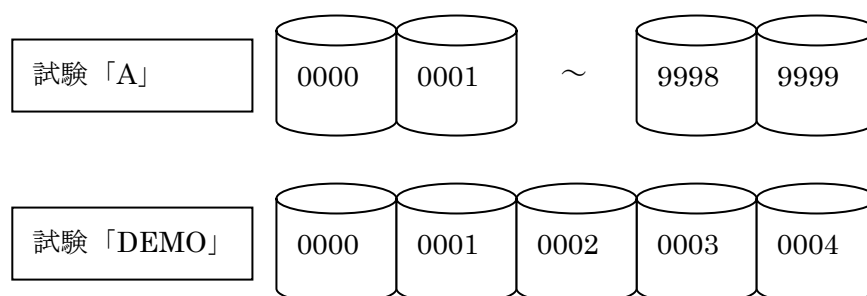
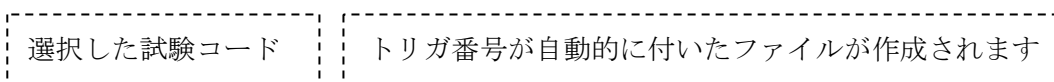
データ収録を行なうパターンは以下の測定モードから選択します。

- ① マニュアルトリガ 測定開始／終了を手動で行います。
- ② ワンショットトリガ 下記のトリガ条件で1回だけ測定します。
- ③ リピートトリガ 下記のトリガ条件で繰り返し測定します。
- ④ タイムトリガ 連続収録(ファイル分割)とインターバル収録を行います。

収録データはリアルタイムにパソコンのハードディスクに格納されます。

お客様はあらかじめLXの入力レンジ、サンプリング条件等に関する測定条件を登録しておき、そこに登録した「試験コード」を収録ごとに選択します。また、収録データファイルはトリガ条件が成立した単位に作成されます。

収録データファイル名には「試験コード」と「トリガ番号」が含まれています。



### (2) データ解析時の収録ファイル再表示、トリガデータ切替え

データ収録後、ハードディスクに格納されたファイルを再度呼び出して時系列、FFTグラフ表示や演算処理、フィルタ処理等、多彩なデータ解析を行なえます。

上記の図を、参照してください。

データ解析時、同一試験コードであれば、画面上で簡単に任意のトリガデータにグラフを切替えることができます。

「次のトリガ」「前のトリガ」に切り替えるボタンもツールバーに用意してあります。

別の試験コードのデータを読み込むには再度「ファイル読み込み」から行なって下さい。

### (3) 画面構成とグラフ

SpectraView には以下のような画面表示機能と画面構成があります。

#### ①データ収録時の表示機能

T-Yグラフ	128 チャンネル同時表示、グループ登録可能
X-Yグラフ	128 ライン同時表示、グループ登録可能
バーグラフ	16チャンネル同時表示、最大 128 チャンネル、ページ切替可能
FFTグラフ	1~4チャンネル表示、FFTフレーム長 64~32768

#### ②データ解析時の表示機能

T-Yグラフ	128 チャンネル同時表示、グループ登録可能
X-Yグラフ	128 ライン同時表示、グループ登録可能
FFTグラフ	1~4チャンネル表示、FFTフレーム長 64~32768
窓関数	レクタングュラ、ハニング、フラットトップ、指数
表示単位	PWR/Peak/rms/P-P/dB
特性補正	A特性、C特性
平均処理	ピークホールド、加算平均、指数化平均
周波数領域関数	スペクトル、クロススペクトル、コヒーレンス、伝達関数(FRF) 自己相関関数、相互相関関数

FFTカラーコンターグラフ、FFT3D+スペクトル+T-Yグラフ

FFT3D+スペクトル+T-Yスペクトルグラフ(特定周波数)

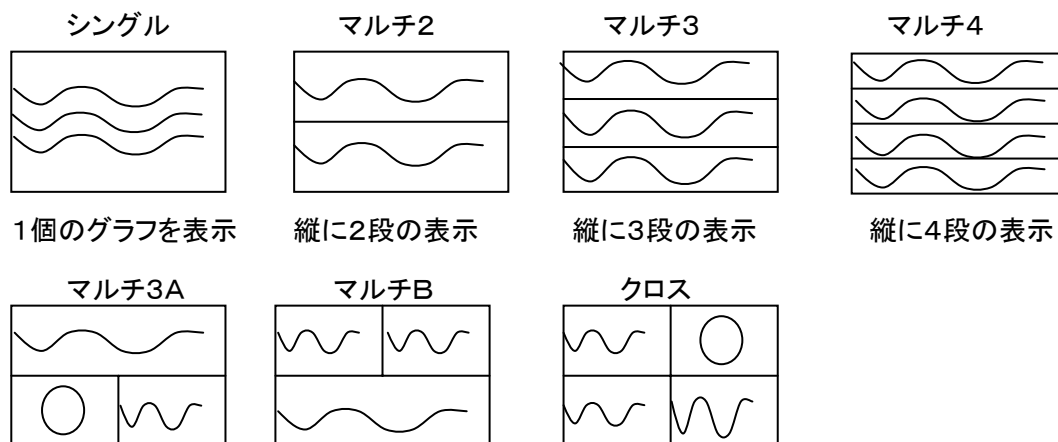
#### ③SpectraView のオプション機能(有償)である、「後処理トラッキングオプション」にはさらに以下のグラフ表示機能があります。

定比/定幅3Dトラッキンググラフ

回転次数比グラフ

rpmトラッキンググラフ

キャンベルグラフ



上図の画面構成を選んだ上で、それぞれの矩形内に表示したいグラフを選択します。

上記画面構成とグラフの種類は任意に名称を付けて保存しておくことができます。

ただし、計測時と解析時により、グラフの種類によっては選択できないものもあります。

## 5. SpectraView デモプログラムの操作方法について

SpectraView デモンストレーションプログラムが持つ機能の一部を紹介します。

- (1) 環境設定: データ収録したファイルの保存場所等、原則として最初に決めておく項目について指定します。SpectraView を起動してファイルメニューから「環境設定」を選択します。

The image shows two screenshots from the SpectraView LX TRK 2.00a DEMO software. The top screenshot shows the File menu with '環境設定(E)...' highlighted. A callout box points to this option with the text: 'ここから環境設定を行います。' (From here, you perform environment settings.) The bottom screenshot shows the '環境設定' (Environment Settings) dialog box. It contains fields for 'テンプレートフォルダ' (Template Folder) and 'データフォルダ' (Data Folder), both set to 'C:\Program Files\SpectraView LX DEMO\Data'. A callout box points to these fields with the text: 'フォルダ指定は任意のデータパスを入力できますが、デモを行なう場合には、C:\Program Files\SpectraView LX DEMO\Data してください。' (Folder specification allows for an arbitrary data path, but for running the demo, please use C:\Program Files\SpectraView LX DEMO\Data.)

デモンストレーションプログラムを動作させるには、テンプレートフォルダ と データフォルダに「C:\Program Files\SpectraView LX DEMO\Data」を設定しないとダミーデータ表示ができません。

## (2) データ収録処理

ダミーファイルを読み込んで画面表示を行う機能が組み込んであります。

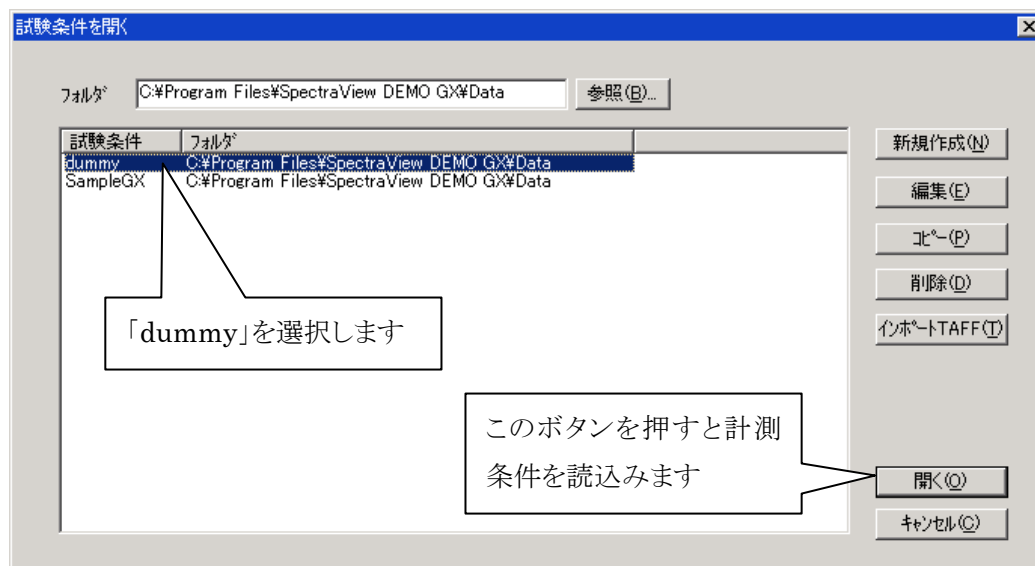
LXには接続できませんが、この機能を使ってデータ収録の際、行なえる機能の様子を見ることができます。

- a. ファイルメニューの「計測条件を開く」か、以下のようにツールバーを選択して計測条件を読み込みます。



ここをクリックします

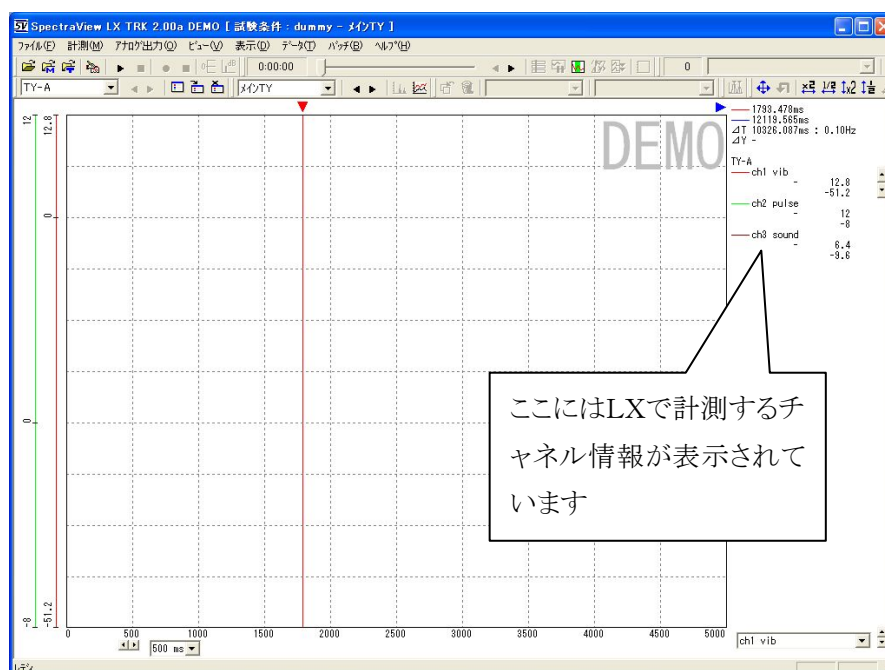
次にデモ用のダミーファイルが格納されている試験条件「dummy」を選択後、「開く」ボタンを押して下さい。



「dummy」を選択します

このボタンを押すと計測条件を読み込みます

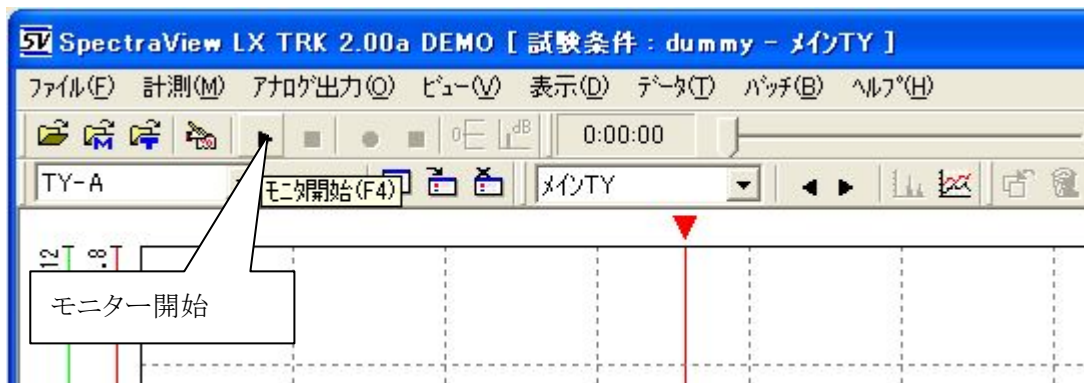
モニター開始待ちの画面が表示されます。



ここにはLXで計測するチャンネル情報が表示されています

b. SpectraView でデータ計測を行なう手順は以下の通りです。

前頁の画面の状態で「モニター開始」を指示します。



モニター開始画面が表示されます。デモモードなので試験コードは入力できません。

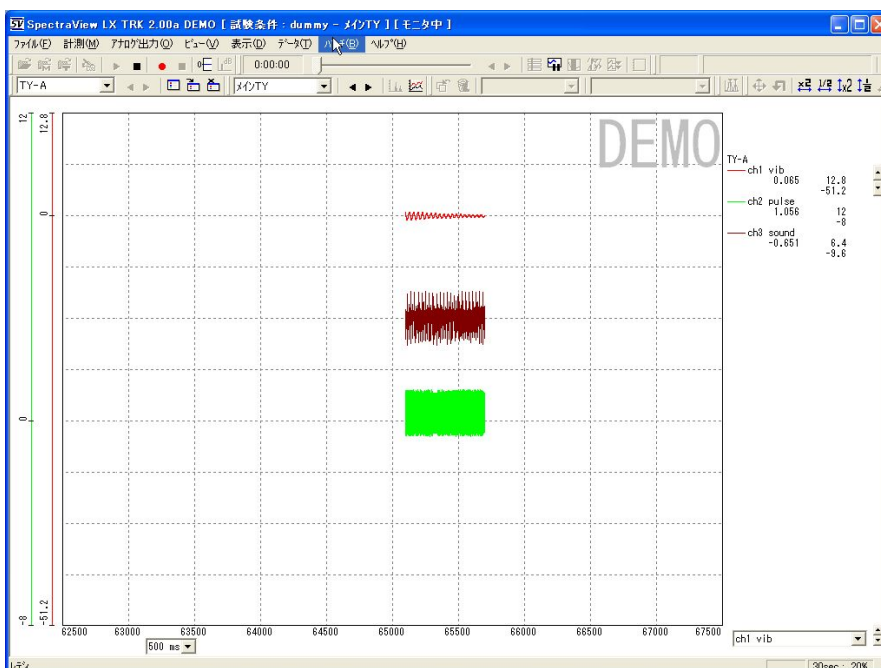
開始ボタンを押せばLXから計測したデータを画面表示しますが、この段階ではセンサからのデータをモニターするだけでまだパソコンへデータの保存は行いません。



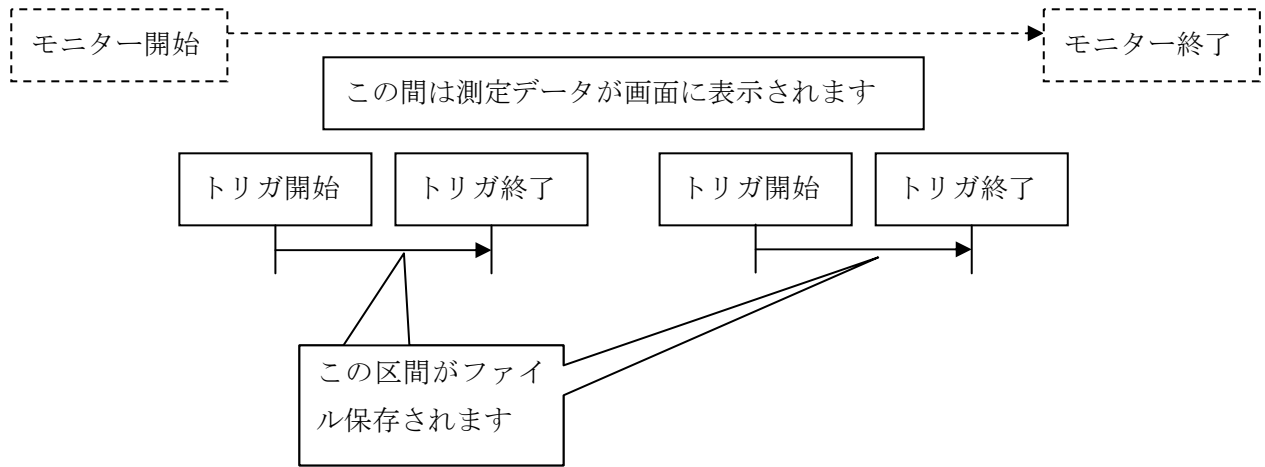
データの保存を行なうためには次の「トリガ開始」を行なう必要があります。

モニター中の画面は右のようになります。

ここでデータを保存するには次の「トリガ開始」を指示する必要があります。

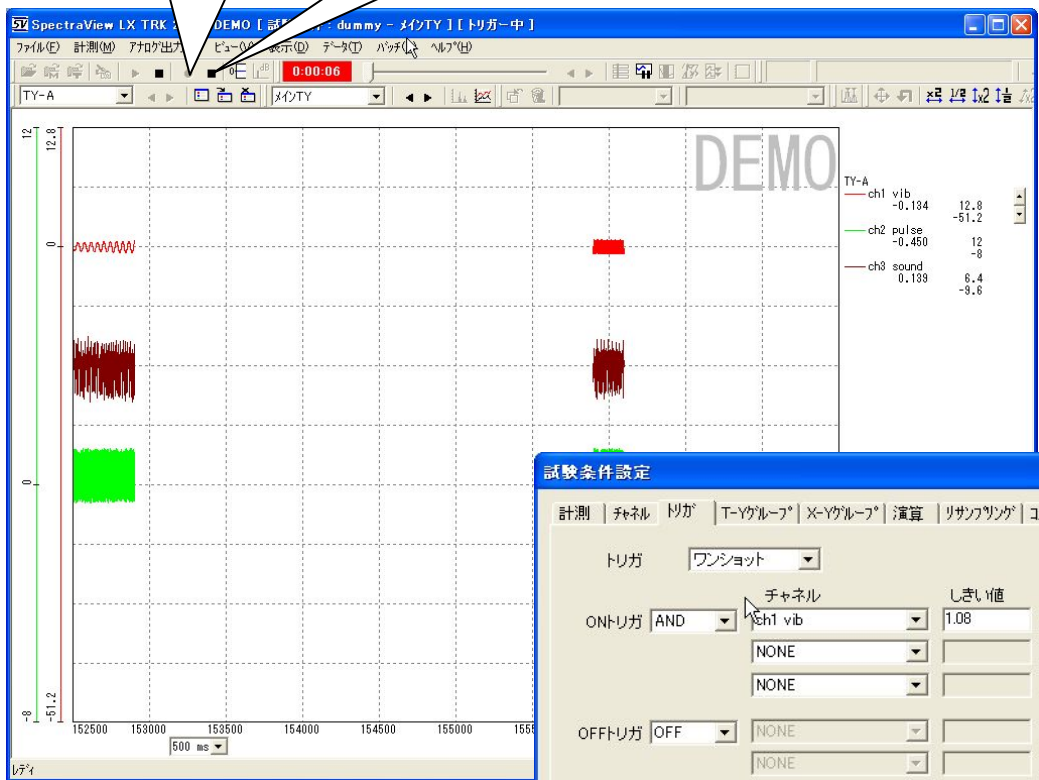


- c. 以下のトリガ成立区間のデータがハードディスクに格納されます。  
 トリガ開始、終了を手動で行えば、その間のデータがディスクに保存されます。



トリガ開始ボタン      トリガ終了ボタン

マニュアルトリガ指定ならここでトリガ開始、終了ボタンを押してその区間のデータ保存ができます。



試験条件設定

計測 | チャンネル | トリガ | T-Yカルーパ\* | X-Yカルーパ\* | 演算 | リサンプリング | コスト

トリガ

ONトリガ	AND	チャンネル	しきい値	タイマ
		ch1 vib	1.08	立上り
		NONE		
		NONE		
OFFトリガ	OFF	NONE		
		NONE		
		NONE		

プレトリガ時間  msec      OFFトリガ検出待ち時間  msec  
 ポストトリガ時間  msec      トリガ未検出時間  msec  
 最大トリガ時間  :  :

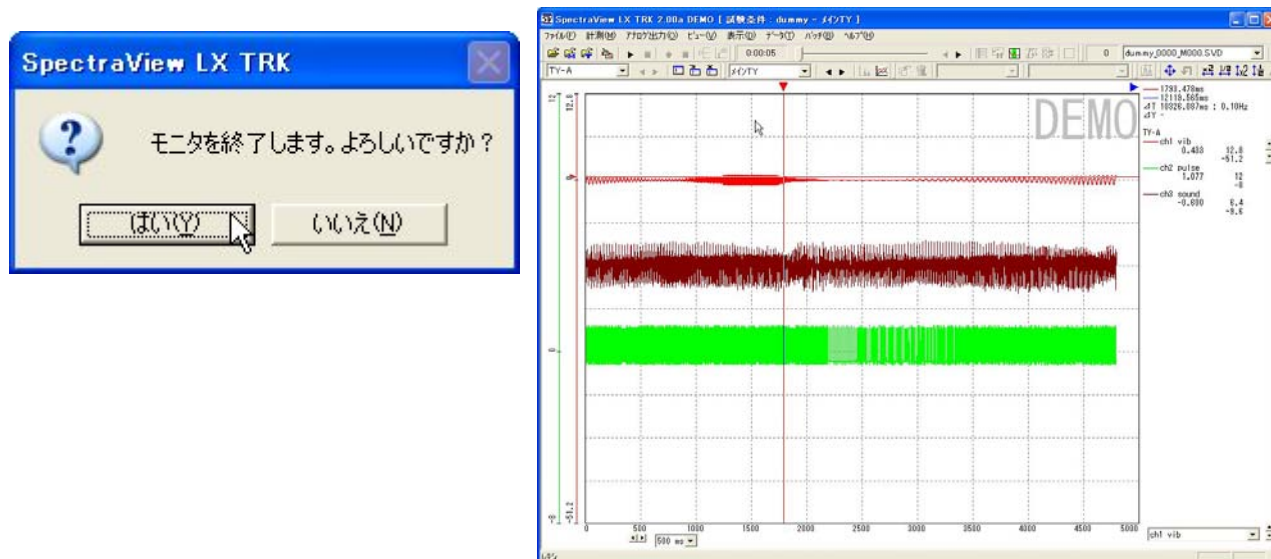
分割保存      保存間隔  minute  
 保存時間  sec

OK      キャンセル

トリガ条件の指定は「計測メニュー」の試験条件の中のトリガ指定で行います。  
 マニュアル(手動)、ワンショット、リピート、時間トリガ指定ができます。

### (3) データ再表示処理

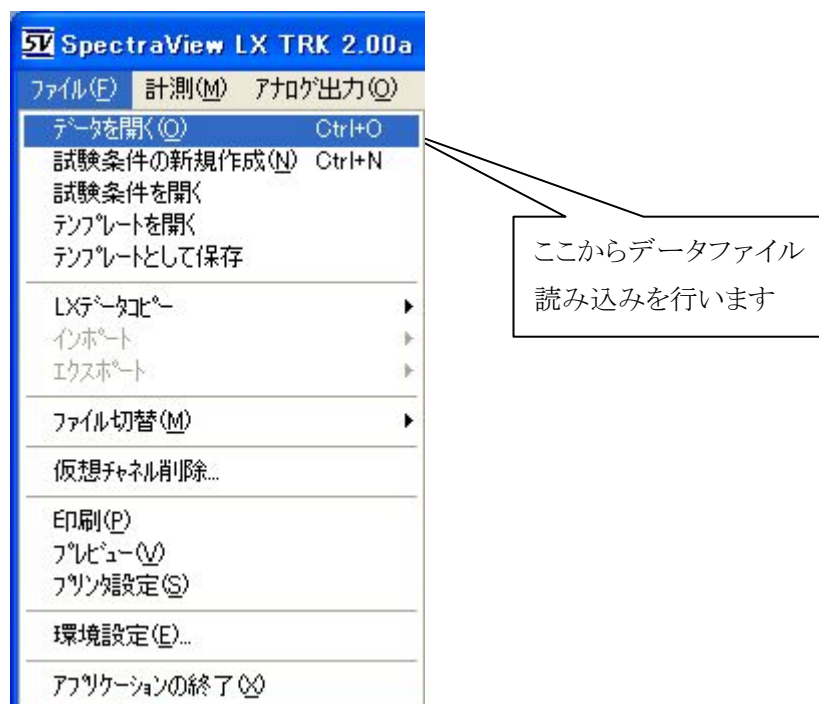
- a. トリガ終了後もモニター画面は継続して表示されます。モニターも終了するには「モニター終了」ボタンを押して下さい。終了確認の画面が表示されますので、「はい」を押せばモニターも終了し、トリガー保存されたファイルを自動的にTYグラフ表示します。

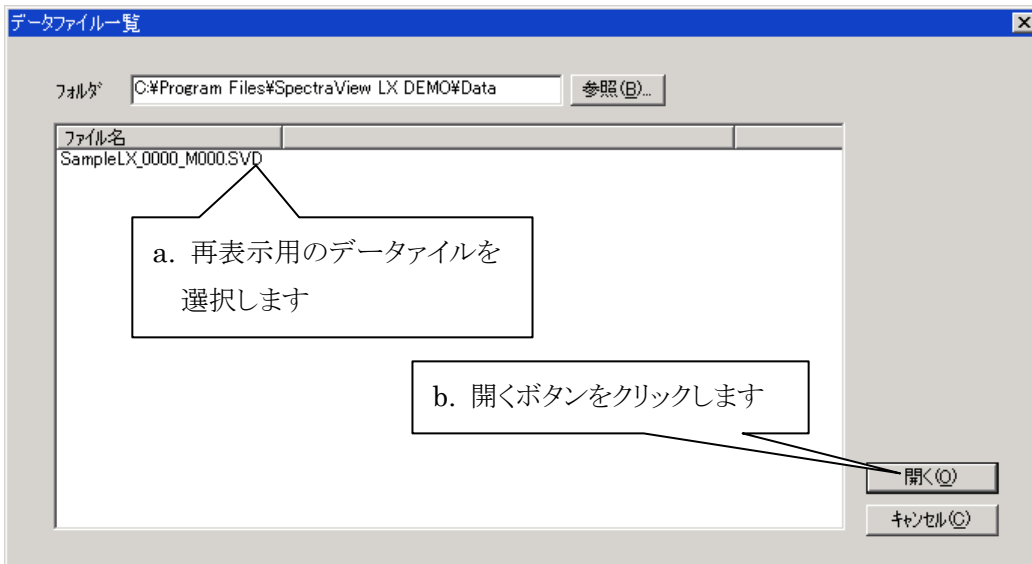


- b. トリガー計測直後でない場合には、以下のファイルメニューから「データを開く」「データファイル一覧」で計測ファイルを指定して読込を行なって下さい。

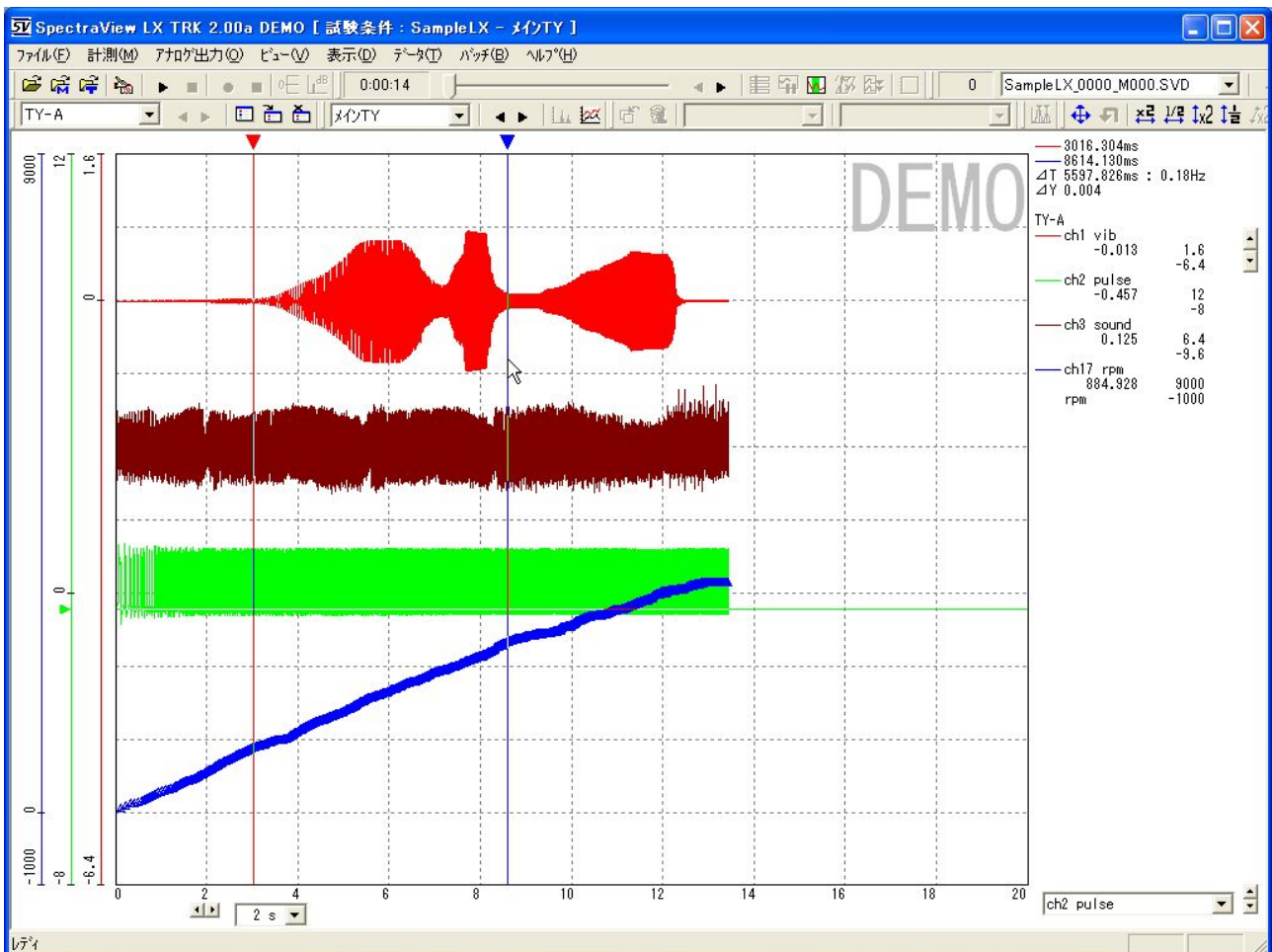
後処理トラッキング解析機能で定比トラッキング3D(3次元)グラフ、rpmトラッキング、回転次数比、キャンベルグラフを表示したい場合には、次頁のデータ一覧で表示されている SampleLX\_0000\_M000.SVD を指定して下さい。

デモプログラムではch1に振動、ch2回転パルス、ch3に音、ch17には回転数のデータを収録してあります。

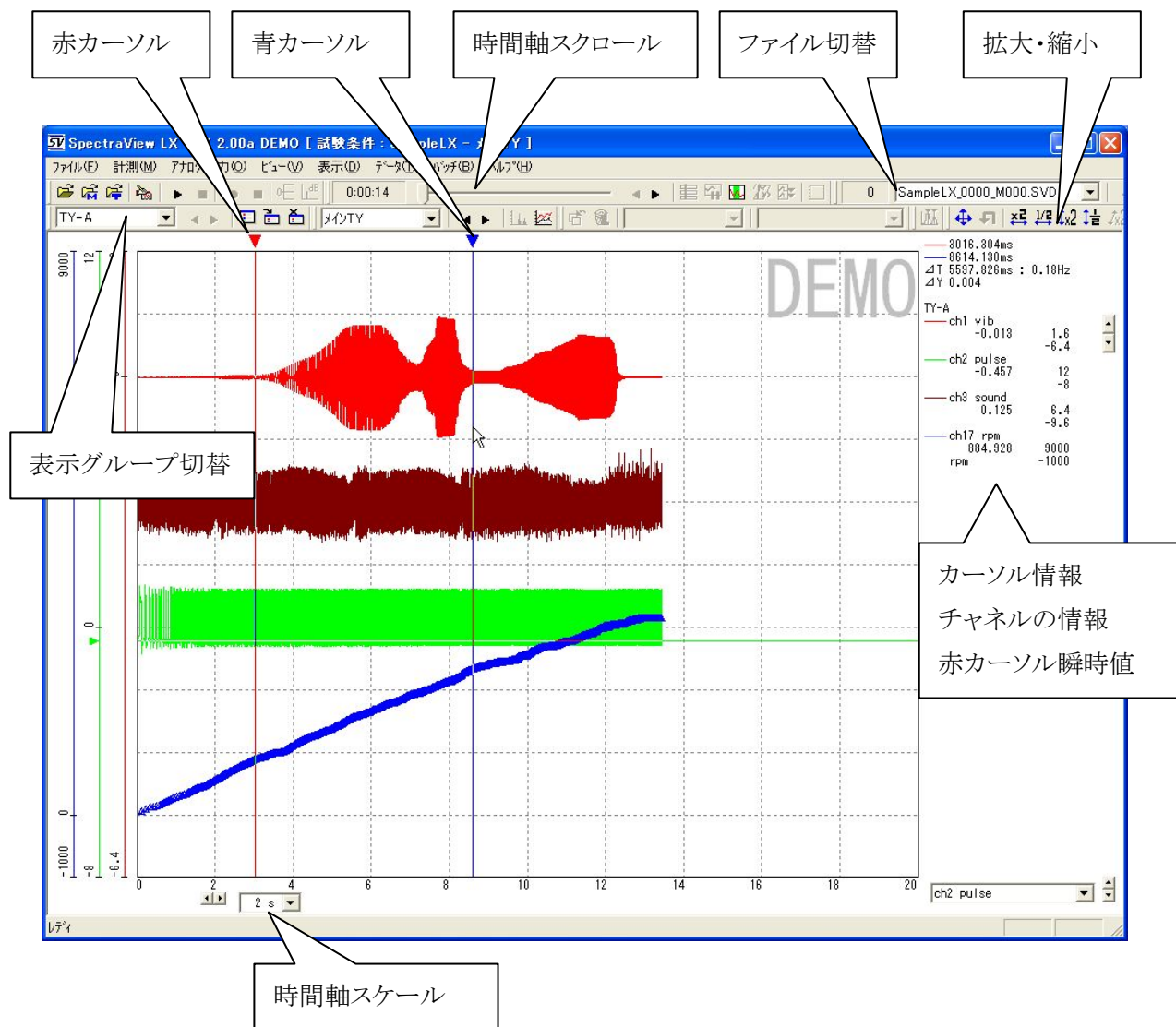




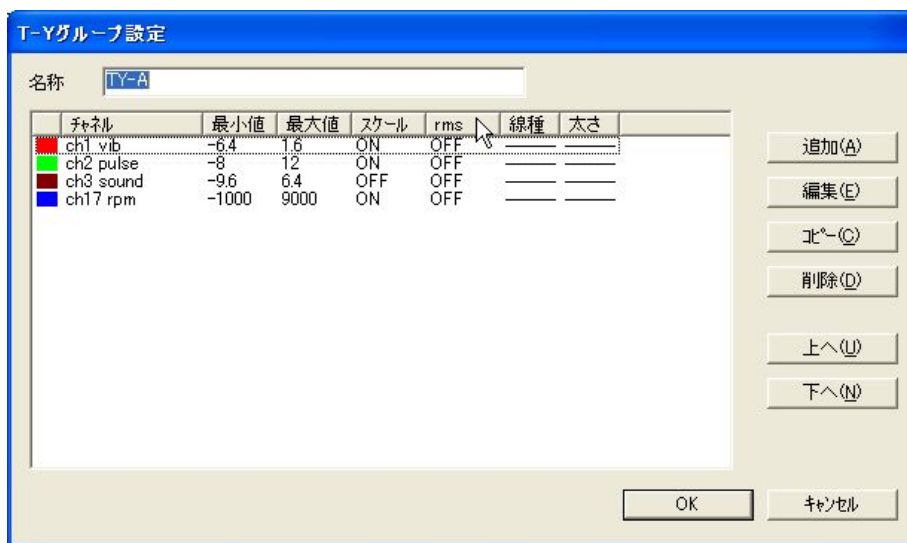
画面にTYグラフが描画されます。



(3) TYグラフ表示



マウスの右クリックで以下のダイアログを表示して表示グループの追加、変更ができます。

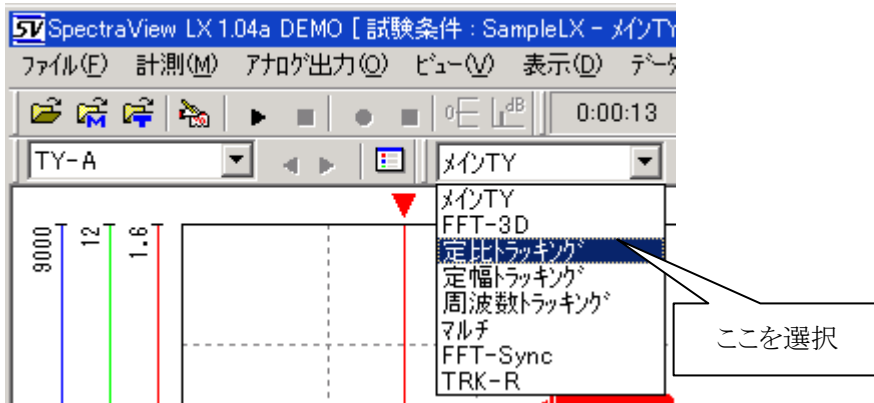


#### (4) 定比トラッキング3D(3次元)グラフ

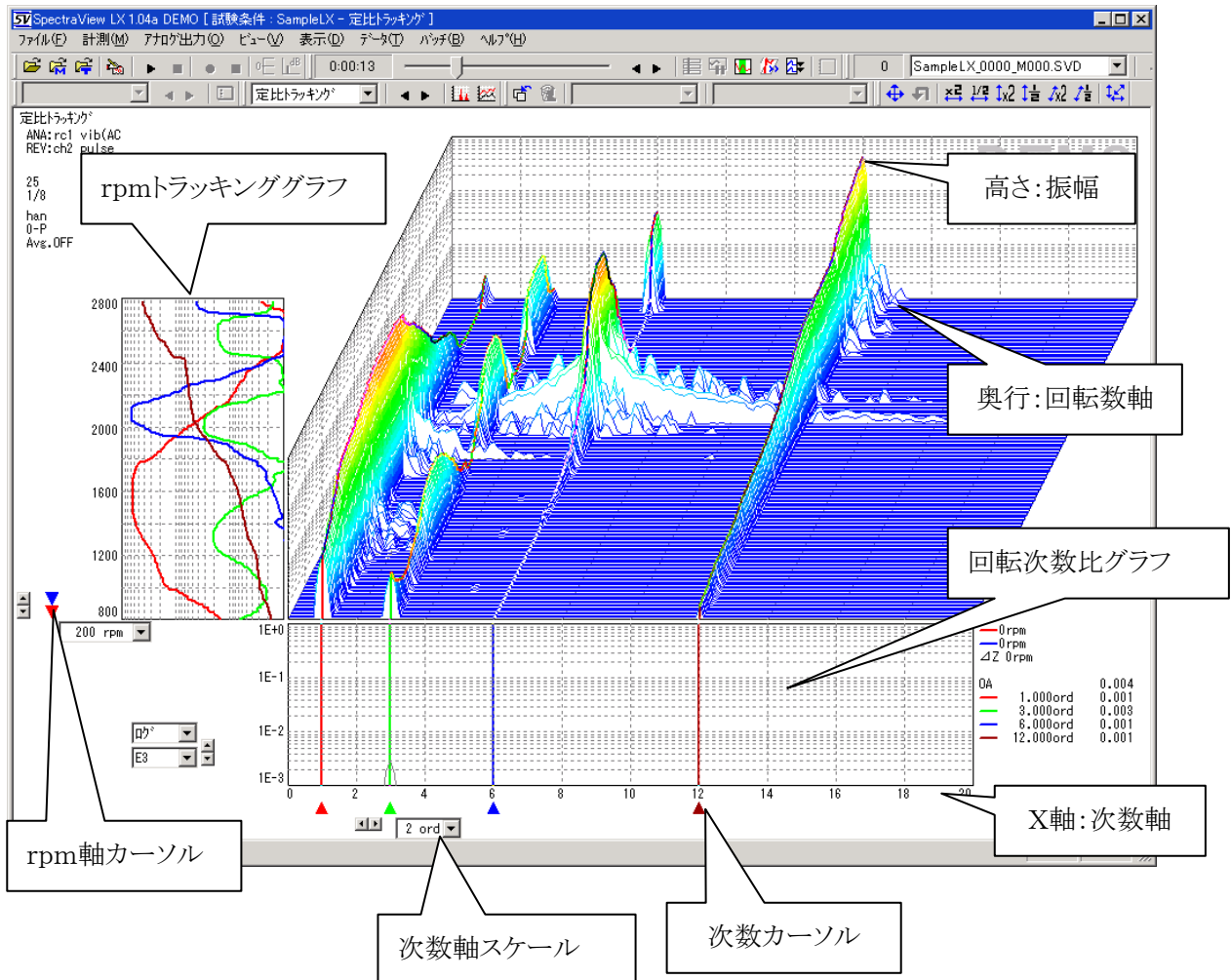
後処理トラッキング解析機能についての詳細説明は「機能概説書」を参照して下さい。

デモンストレーションプログラムでは定幅トラッキング解析機能も使用できます。

- a. 画面をメインTYから定比トラッキング3Dグラフに切替えます。

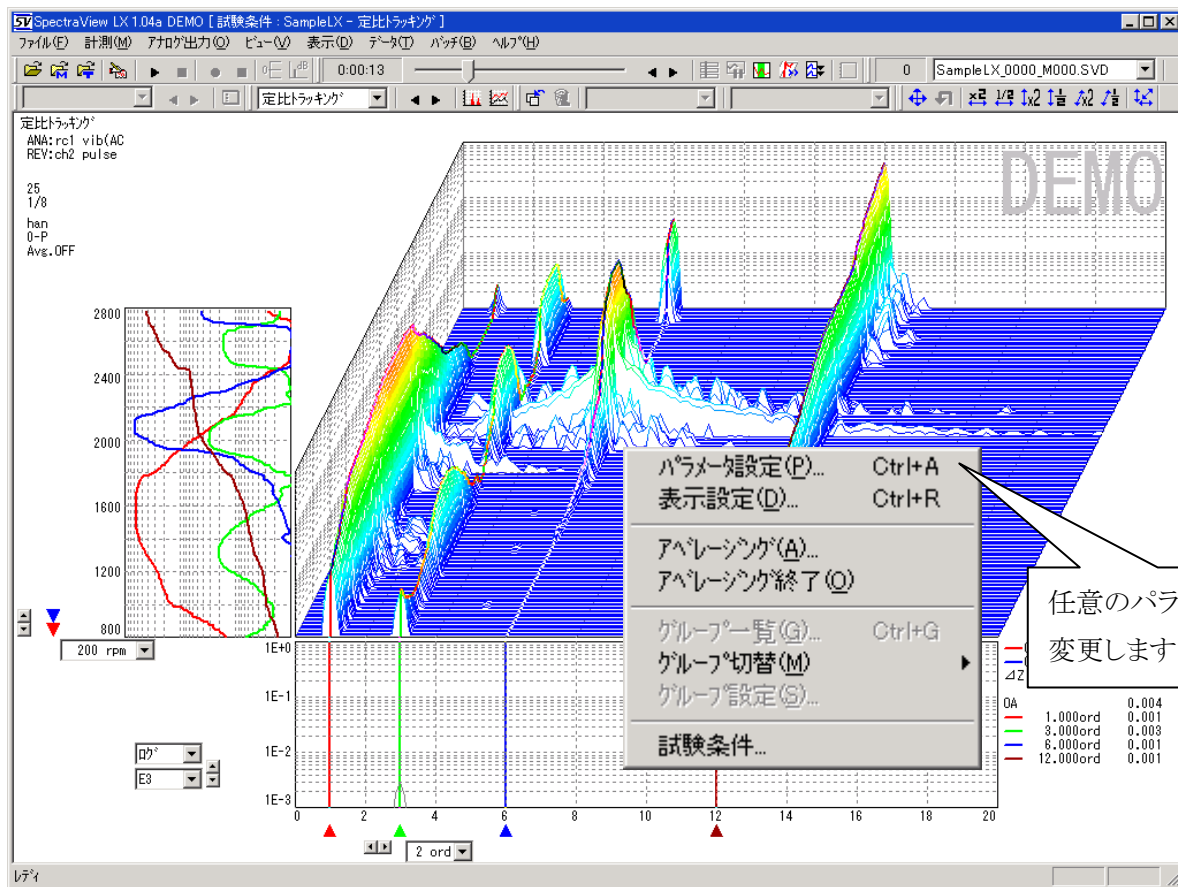


- b. 定比トラッキング3Dグラフが表示されます。



c. トラッキングパラメータ指定

右クリックのメニューからパラメータを変更できます。



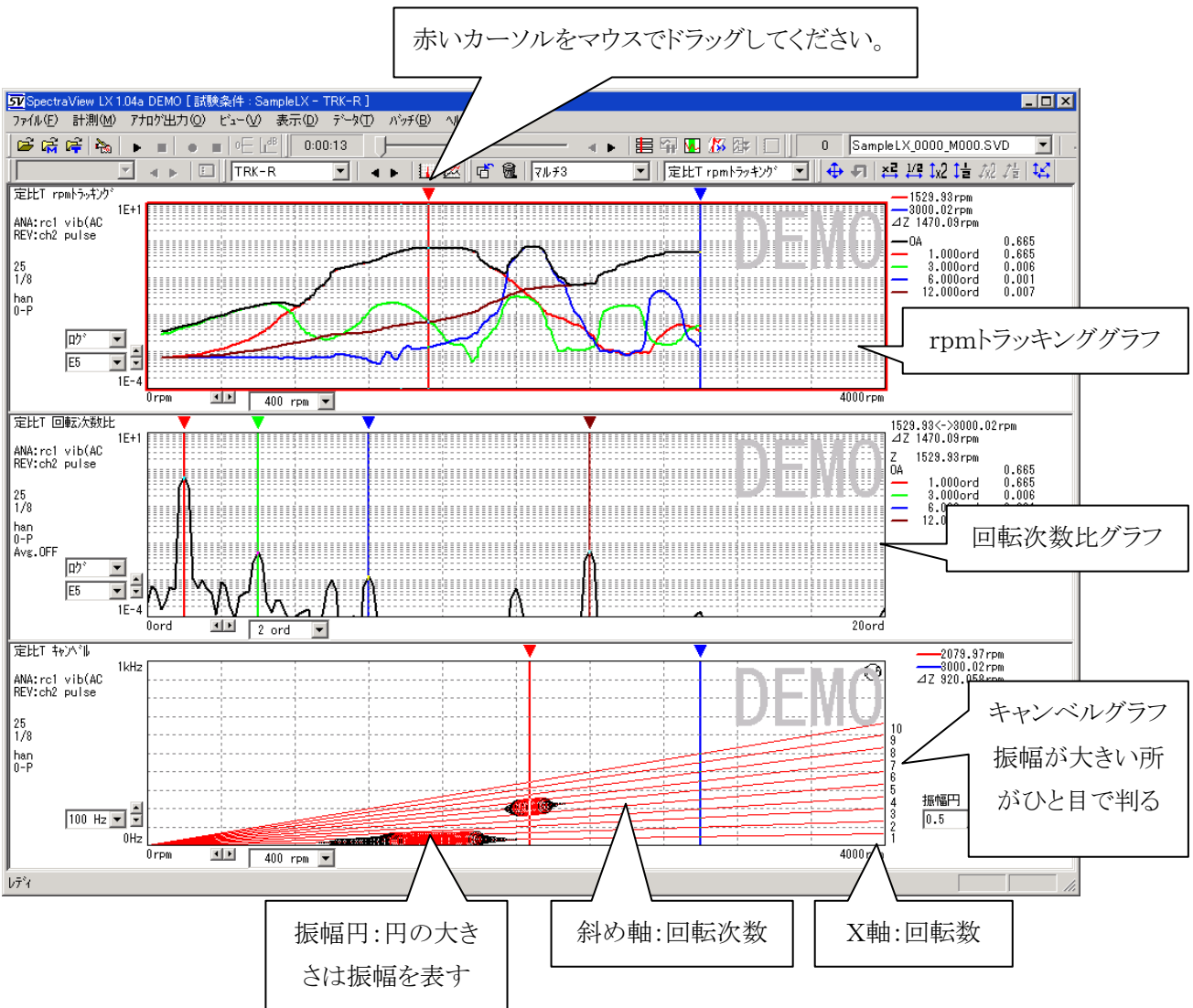
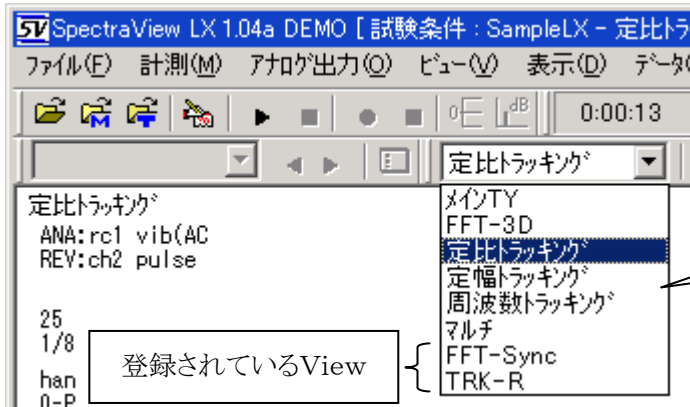
トラッキング解析時のパラメータは任意に変更できます

生データをハードディスクに収録しているため、再解析が容易です。

(5) View

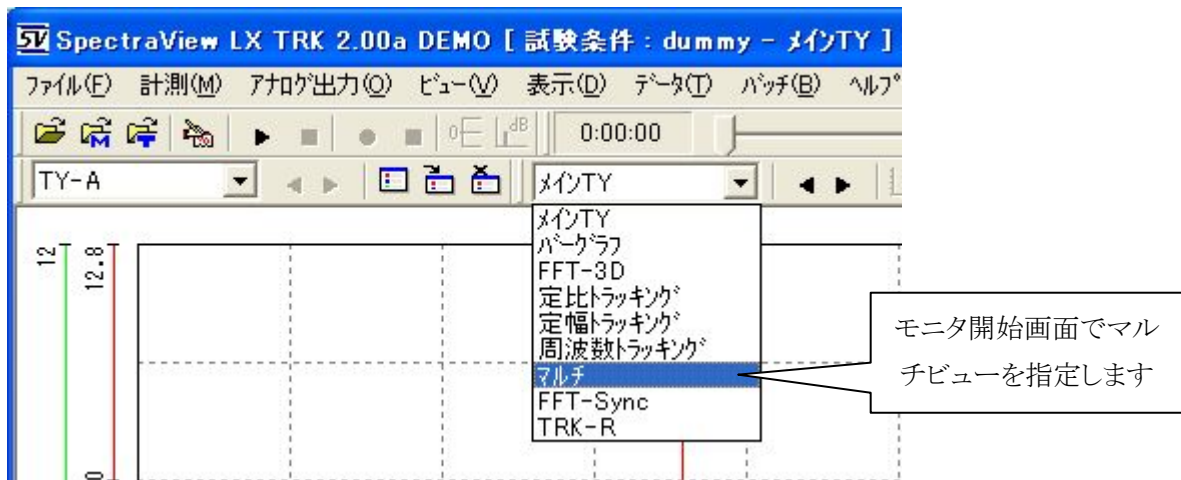
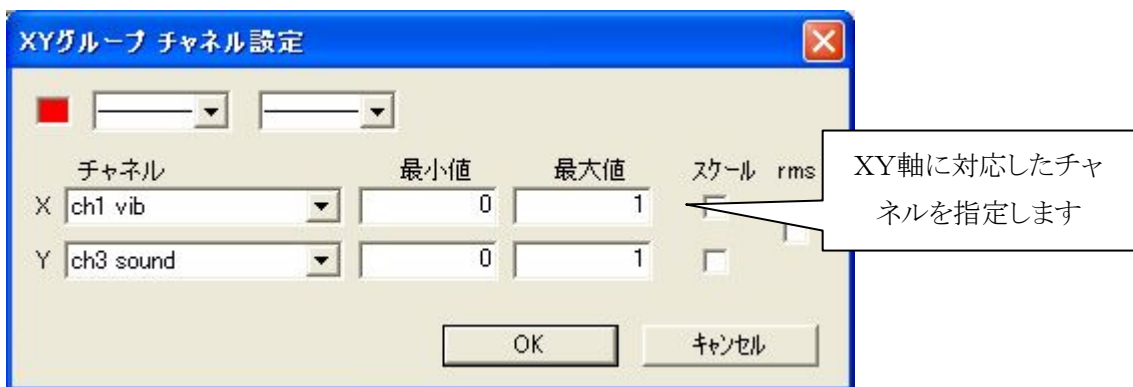
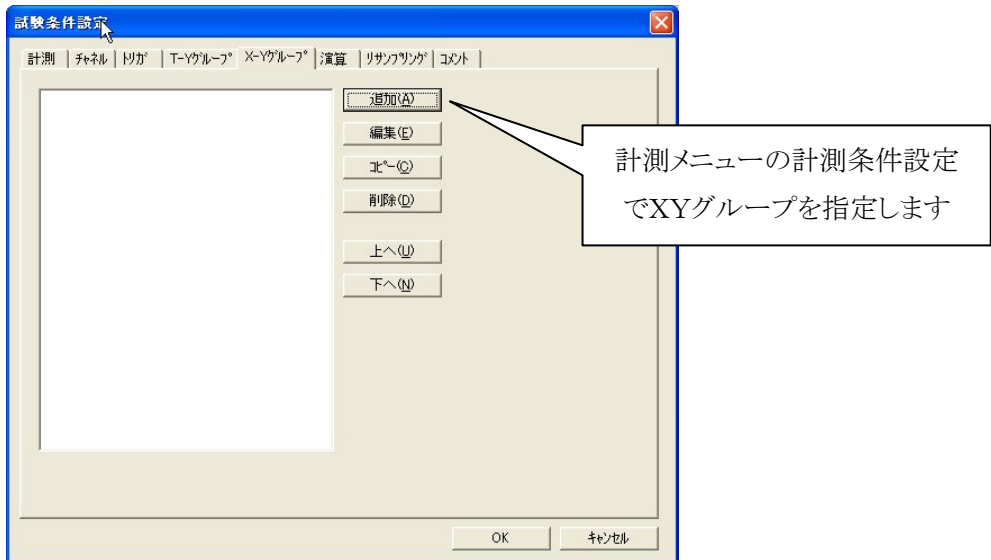
a. Viewの切替え

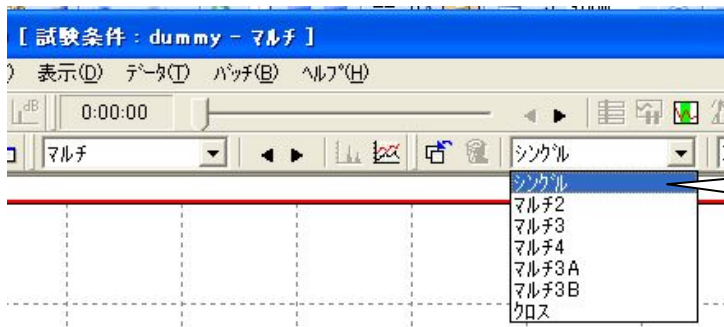
表示されている画面のグラフ構成を変更して新しいViewを登録することもできます。



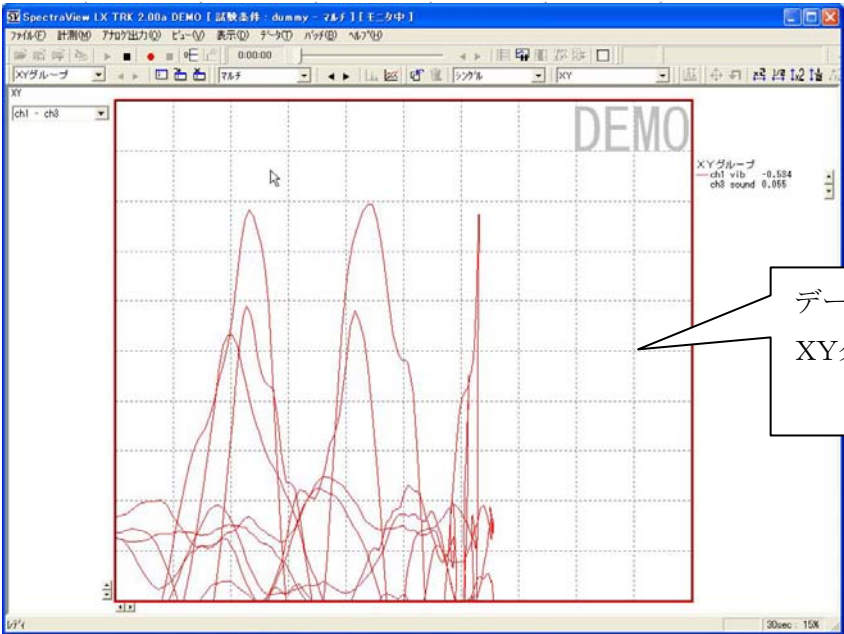
b. XYグラフの新規登録、変更

「計測メニュー」の「計測条件」でXYグループを登録すれば、データ収録時にXYグラフを表示することもできます。同様にデモンストレーションプログラム登録されているViewを変更したり、クロス等、他の画面構成を新規に登録することもできます。既存のViewの構成を変更して新しいViewとして登録することもできます。





シングル表示を  
指定します



データ収録画面で  
XYグラフを表示  
します

(6) その他の機能

SpectraView での解析機能はデータメニュー内のものと解析処理を纏めて実行するバッチメニューでのものがあります。

データ抽出、CSVファイル出力、パソコンのサウンドカードによる音声再生、クリップボード出力、演算、フィルタ処理、積分演算、ファイル分割、リサンプリング処理があります。  
詳細仕様は別途「機能概説書」を参照下さい。



株式会社ハビリスホームページ <http://www.habilis.co.jp> e-Mail : [sales@habilis.co.jp](mailto:sales@habilis.co.jp)

<p>●開発元</p>  <p>株式会社ハビリス</p> <p>システム営業部 〒108-0014 東京都港区芝 4-7-1 西山ビル TEL : 03-3769-6291 FAX : 03-3769-6285</p>	<p>●お問い合わせは</p>
--	-----------------